

やくおうじ・つばき。

K市で4代続いている医者の家の次女。

優秀だった姉と比べると“目も当てられないほど低劣”な出来であり、両親からは産んだ事自体が間違いの“不良債権”と見なされている。唯一姉だけは良好な仲を築いていたが、その姉も7年前に失踪したため、家に居場所が殆ど無い。

母親からは“妊娠以降養育に要した全費用の返済”を求められており、大学受験を認められていない。

これ以上“負債”を増やさないためK市の書店でアルバイトをしており、小遣いは全てそれで賄っている。

最後に両親から名前と呼ばれたのがいつだったか覚えていない(“おい”とか“こら”とか“あんた”と呼ばれている)。

学校ではそういった家庭の事情などは一切明かさず、努めて明るく振る舞っている。

現実逃避のため(表向きはオカルト話が好きなため)オ力研の部室にお邪魔することもしばしば。

なお学業の成績は学年で10番目くらいで、恋人がいたことは無い。

近所に下宿している中里とは割と長い付き合いで、たまに下宿を家からの避難所になっている。

～家族について～

父親：K市の医者の4代目で、知り合いに市議会議員がいる。椿が中学二年生だった頃、親からの虐待を疑った担任の教師が児相に通報したことがあったが、その教師と児相の担当者は“女子生徒への淫行が発覚”したため、一週間後に二人とも懲戒免職になった。

母親：夫とは小学生の頃から幼馴染で、医者の嫁であることを何よりも誇りにしている。結婚するまでは税理士事務所で働いていた。若い頃はよくモテたらしく、男に好意を向けられたことのない椿を女としても出来損ないと見なしている。

姉：薬王寺牡丹(やくおうじ・ぼたん)。5つ年の離れた姉。容姿端麗、成績優秀、おまけに人当たりも良く誰からも好かれるという非の打ち所の無い人物だった。椿に愛情を持って接していたただ一人の親族であり、椿も姉妹として純粋な敬意と親しみを向けていた。

その他の親族：基本的に存在しないものとして扱われており、親族の集まりには顔を出せない(椿は牡丹が行方不明になったのと同時に死んだことになっている)。